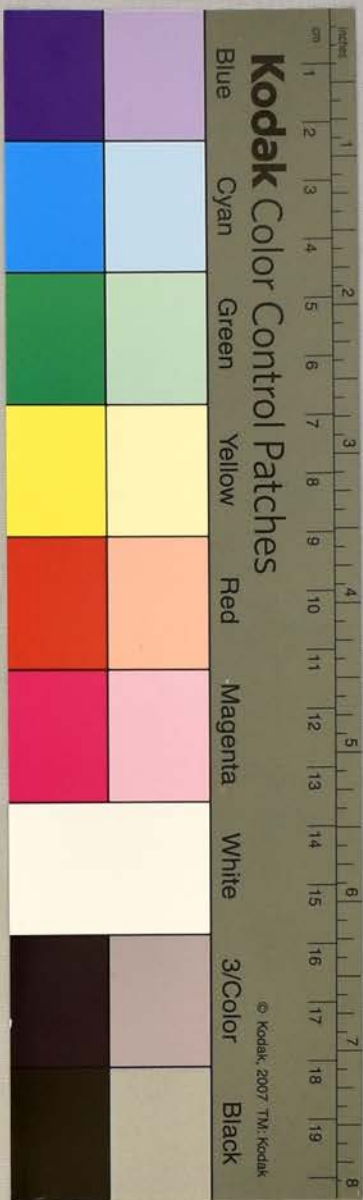


葬事畧記

3868

ツ



32015

尾神局
張祇

葬事略記

人乃子あらむ者。父母のよを以五六十歳尔否

至らば。請てその肖像を寫し或を歌ふても詩

の子置登し。ちて年老病小罹カて。危篤アヤフらむ

と。人も吾子思をむ時は。親族うち寄り。家小つ

き。身尔つき。心得とせむ事どもを尋問は。まゑ

遺言等あらむ。皆記し置く登し。病者も。其家小

靈魂字留めて。

角田忠行

明治十九年
八月
角田忠行記

和歌山県文化会館
昭 33.7.30
35012

3866
ツ

吾子孫をして。御国に。君の忠を盡さしむる守
神とあらむ事。常不思定めてありぬべし。
既尔息絶む。家の神棚に封成。蓋し。以て是よ
に棺を作る。其用材を被^{トモ}と云。の木を用ふ。蓋
し。是神代の御掟なり。此木は松の木。あど
用ふべし。檜杉乃類用ふ
ら。作らば。其人の丈に應じ。臥あるまじ。衾^{フタ}
褥^{ミトネ}と共に收めらる。やうに考べし。死者の衣
服改べらば。唯新衣一枚をそのうへに着せ
蓋し。以て棺に移して。面^{オホヒ}を覆ふ。し。禮服刀劍

等々そのかたしを法にす。其人の手を洗ひの
品ども添牙納め。中字動のぬやうに。石^或炭^或糠^或
等を袋^{オハ}堅くつめて蓋^{フタ}をかき。釘^{カシ}にて固^{カク}むべし。
おほ四方内外と各合縫^{アハセ}ぬ。松脂^{マツヤニ}をぬるべし。

座棺を便利ある字以て。後世然らばと各。死
躰の膝腰を折り屈ぬ。あど考む。忍びざる
事あむむ。なる。蓋支支を臥棺にせ。蓋し。まゝ
死躰を素裸^{ヌハカ}にし。沐浴せらる。あど。其人字恥

の志むる理なきを。然る事を去べらる。何
むの里洗はて。清淨なをならぬも。死して
携へる者も。深く汚る事れをふり。まぬ
死者を長く留置。臭氣などいでも。亦其人
の恥なきは其心配も何るを。し。

○ して棺布の覆をれし。堅く擔木を結つけ。新
菰を志き。枕乃方を拜ま。留やうも居べし。榭酒
飯。魚。菓。野菜。海藻を始め。生前も好むる品も。机

のせ之を供牙。然して其前も。親族朋友うち
寄て。誄を申來。祭主も嗣子あるを。し。嗣子なき
の者勤。誄とも。其人一世の功業を語り聞ゆる
をいふ。その文例

○ 秩の實の父命。姓名翁也。某翁の眞名子も座て。
何年何月何日。生出まして。何年より世を續
給也。何年何を何の功あり。何年何は何の事も
いそしめ。已等をも恵み育給牙。其御勞

の忝^サれを更^サふも申^サは^レば。何^ト加^ヘる五^イ百^ホ年^ト千^チ歳^ト
毛^ウ頭^ツ世^ニ坐^シて。御^ミ教^{コウ}ど吾^ガ受^ウ賜^キをらま^ク思^ヒ比^ヒ給^フ
へて在^ルる^ニ。今^イ年^{ネン}何^ニ月^{ツキ}何^ニ日^ニの何^ノの時^{トキ}に。幽^ウ冥^{メイ}
ホ^レりませ^ルは。神^{カミ}の朝^{アサ}廷^{テイ}の御^ミを^ウり^ルる物^{モノ}
から。然^シて^モ不^レ頭^ツ世^ニの理^{コトワリ}爲^ス方^ベも^モ去^クる^ニ。や^ハ
のの嘆^{ナゲ}ふ^ニ沈^シみぬ^ル事^ト。見^ミそ^ノな^ニを^シ給^フ不^レ如^シ
し。か^クて在^ルべき^ニ不^レ何^レら^ニ祿^{ロク}を。奥^{ウチ}つ^キ處^{トコロ}不^レ葬^{サウ}免^ズ
奉^{ホウ}ら^ムと^モ去^クる^ニ哉^カ。御^ミ靈^{レイ}を常^{トコ}志^シ牙^ガ不^レ此^{コト}家^{イヘ}不^レ留^{トモ}ま

且^カ給^クは。隱^{カクレ}世^ニを^シ惠^{サキ}み^テ幸^{サキ}牙^ガ守^{モリ}給^ク牙^ガ。御^ミ子^コ某^{ナニ}涙^{ナミダ}
お^シ拭^{ヌグ}ひ^ツ。恐^{オソ}み^テも^モ申^{マシ}度^{ナシ}。終^{シマ}りて。親^レ族^{ゾク}朋^{トモ}友^{トモ}共^ニ不^レ親^レし^ニの^ニ事^ト。美^{ウツク}を^シ志^ス
交^{マシ}は^レた^リめ^シ事^ト不^レど語^{コト}り聞^クゆ^ベし。

○墓^{ハカ}所^{トコロ}多^クき^ニづ^ク事^ト。不^レる^ニ限^リを^シ先^マ祖^ソの墓^{ハカ}不^レ並^ナぶ^ニ登^ト
し。是^レ清^{スガ}地^チ多^ク汚^{ケガレ}ら^レぬ^ニ爲^スあり。止^ト事^トを^シ得^ユて^モ清^{スガ}
地^チを^シ墓^{ハカ}所^{トコロ}と^シせ^ム。穢^{ケガレ}を^シ未^マ者^{モノ}。其^レ所^{トコロ}不^レ至^リりて。其^レ由^ユ
世^ニ神^{カミ}不^レ請^{コト}願^{ガハシ}奉^{ホウ}る^ニべ^シ。

○ちて葬地をある丈深く掘らるべし。一丈より浅く掘らるべし。石棺を構ふる事。庶人乃得此設ありて出棺せらるべし。

○葬送を夜中あるべし。行列を松明火の用心ありしき時を提

灯カ換カ持手カ松明カ向カ外カ是カ爲カ散米カ柩カ之カ

歩カ死者の足の方を以て先とせし。首の方を先とせし。誤るを誤る。やう列

ぶるし。其人の格式シカク準シカクは長柄傘打物銚何

て形代カタシロ字作シテ行列を現在の時トキ如く

べし。柩墓所カネ至カネ。豫カネて設けある所トコロ南枕ミナモトを埋め。石銅或は瓦。年号姓名之墓と刻ある誌を収め。行列カネ不用カネひし。不用の物をも埋むるべし。ちて此上を堅く築立て。四方カネ不垣カネを結廻カネし。獸おどの害カネあらむべし。然して姓名之墓と記しある木標を建。柩カネその外供物をれし。此カネ集へる者も。柩カネ或は花カネお供へ。祭主祭文を讀む。文例

○柞葉ハツバの母命ハハ姓名ナリ戸主トうまらふ聞しめせ。今此所ナリ字御墓所と撰定めて。葬ナサめ奉る残ナ。千世チヨ常盤トハ小御子孫ミコの者等トモ尔マキ參詣マシマ仕奉ら志め給マ牙マ。恐み恐みも申は。

○はて葬ハツリの事畢スリて。河頭カハタリ子コ至り身ミ滌スをふしてのち家イ尔ニ歸リぬ登ルし。家内イも亦ナ不淨スなる物モノ字ナ悉スく捨スて掃除スをふし。一間ヒトマを清めて靈魂ミタマを祭マる屋ヤ志シ。祭マ文マ前マ靈代ミタマの肖像ミタマ或シは自筆ミタマ櫻木サクラを坊ヤの形カタ。

小作コサク里リ姓名ナリ翁ヲ之ノ靈ミタマ。謚号あらは。之。と書さべしまづ床トコふあら菰ゴモをカ志シ。机ツクリをカ志シ。其上カミ尔ニ靈代ミタマを安置マさべし。柵サシ時トキの花ハナ。清水シズミヅ。酒サケ。飯イハ。魚イサ。蔬ソウ。藻モ。藁カヤ。墓ハカは多オホ生前シノヘ小好コトめる品モノ何ナニ尔ニて吾オレ供ケふべし。命イハ日ヒよリ五イ十ト日ニの間マ。加カく供物ケモノ字ナふし。皆みな々々尔ニ寄ヨ里リ誄シを申マはべし。又また五イ十ト日ニの間マ。墓ハカ參マ入リべらら志シ。○はて五イ十ト日ニ過スる日ヒ。家内イの大被オホカをカ志シ。神棚カミダの封フシを解ト支サ。始ハジて神前カミマ字ナ拜イ矣ナリ。此コノ日ヒ右ミダ靈代ミタマ字ナ先祖サダノ

の靈屋を合祭す。亦て年毎に命日子を親族うちよむ靈祭を奉る。一周期日よむ。産土神を始て。諸社を拜志奉るべし。

亦て斯を記せるもの。此を

○大公儀オホヤケの御式ミツキふをあらむ。世のあむ人の葬事ハフリワケの。吾が聞もてる中の。愚意カナふ合祭るを聊記しいでつるふあむ。かくて墓碑字嚴重ふあむを吾

大御國オホミクニ風カザリある事。大伴家持卿のトホ大伴の遠つカムオヤ神祖のたかつきを。志るく標立人ヒメタテは知る事。と詠あはへるふても知るを。然まむ葬の後。五十日も過あむ。おごそる墓碑を立るぞ人の子ある乃道にをありける。

影正
植心共々樹

靈祭之圖

靈壘之圖

姓名翁之靈



清波
謹圖

愛 知 県



1103247383